



「どうぶつ」 展示書籍のご紹介

1 動物になって哲学する



動物たちはどんな風に考えているのだろうか？
豚、タコ、コウモリ……。動物の立場から見れば、人間の
世界は違って見えてくるかもしれない。

『タコの心身問題 頭足類から考える意識の起源』

ピーター・ゴドフリー＝スミス／著 みすず書房
タコは賢いけれど、その神経のありようは人間
と大きくちがう。腕に脳の二倍の神経があって、
切り離された腕だけで、腕を伸ばしてものををつ
かむ。
タコになったらどんな気分なのだろう？



2 人間ってどんな生きもの？



人間も動物であるには違いない。
でも、「単なる動物」ではない、という気もする。
人間のどこが特別なのだろうか？

『ダーウィンの種の起源 はじめての進化論』

サビーナ・ラテヴァ／著 岩波書店
人間はなにか特別なところがあるとしても、
ほかの動物と全く無関係ではない。人間も
動物も同じ生きものから進化してきたのだ
から。
ダーウィンの「進化論」が絵本になった。



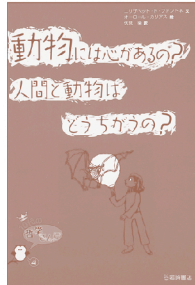
3 動物に魂はあるか？



動物が動いているのを見ると、もちろん魂はある、と感じる。
でも、ロボットだって動いている。
動物とロボットは何が違うのだろうか？

『動物には心があるの？ 人間と動物はどうちがうの？』

エリザベット・ド・フォントネ／著 岩崎書店
しっぽをふる犬を見ると、うれしいのかな？と
思う。けれども犬や、猫は言葉を話さないから、
ほんとうはどう思っているのかわからない。
そもそも動物に心はあるのだろうか？



4 オスとメスと生命の不思議



多くの動物にはオスとメスがいて、子どもを作ることができ
る。一匹一匹は死ぬけれど命はつながっていく。
命って何だろう？

『最後の恋は 草食系男子が持ってくる』

森岡正博／著 マガジンハウス
「草食系男子とは、心が優しく、男らしさに縛ら
れておらず、恋愛にガツガツせず、傷ついたり
傷つけたりすることが苦手な男子」
哲学者が書いた、オスらしくない男性と恋愛す
るための本。



5 共に生きる



かわいいペット。恐ろしい害獣。
私たちの社会の身近には色々な動物がいる。
動物と一緒に生きるってどういうことだろう？

『マンガで学ぶ動物倫理』

伊勢田哲治／著 化学同人
ペットのしつけは、人間のエゴ？
人体実験よりも動物実験の方がマシ？
なぜ家畜は食べてもペットは食べないのか？
動物たちと関わる人間が出会う倫理的な問題
をマンガで分かりやすく学べる本。



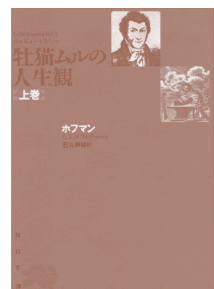
6 動物好きの幾多郎



飼い猫の背中に人形をつけて、娘を笑わせ、シマウマとラク
ダの赤ちゃんが気になって、一人で動物園へ出かける。
大哲学者の意外な一面。

『牡猫ムルの人生観』(上・下)

ホフマン／著 角川書店
ネコが書いた伝記。「おれは自分の伝記を世に
おくる。それはどういう修養をすれば偉大なる
猫になれるかということをおの人に知らせるた
めである。」
幾多郎はこの小説の主人公にちなんで一匹の飼
いネコを「ムル」と名付けている。



図書室の紹介

哲学館の1階の図書室には、哲学に初めて触れる方でも楽しく読める絵本や入門書から、本格的に勉強をした
い方のための本まで、さまざまな哲学の本が9,000冊以上並んでいます。なかには西田幾多郎が生きていた
時代の古い本もあります。どなたでも閲覧できますので、気軽に入室して探索してみてください(17:00まで)。